

此の幽邃なる仙境に立つ者は、僕の外誰も居らぬ、疲れは出る、筆をとる元氣がない、下山と決して元來し道をたどる。

左りは杉木立の、低い暗い山林で、右は高い畑の畦である、中窪の徑は、日光を受けぬから、泥濘は頗る深い、此道筋での難場であらう、夫れをも厭はず、芒や葛などを手折りつゝ、向ふから二人の美人が來た、一人は廿五六のやさかたの奥さん風、一人は廿一二の色白の令嬢風で、何れも縮緬の變り色の、羽織などを着て居る、そも此二人は、何者であらう、此處らあたりを、徘徊するからは、狐狸の變化では、あるまいかと思つた。併し天は、近來珍らしき秋日和と、此の美しくしき二嬌とを、出現せしめて、遠來の僕を、慰めて呉れたのであらう。

穂芒や美人のいとゞすごき笑み

歸りは道の近きを覚え、横濱へ廻つて、家に着たは、午後三時過であつた。

パレットに空の調子や秋の夕

### 要塞地帯より

下關

S、YVSHI生

關門海峡の風光は實に明媚であります

然し砲臺が多いので、風光の美は其十分の一も描現す事は出来ません、又下關市内には川が無い、隨つて風景は平凡です、けれ共、一步郊外に出ると随分面白い處もありますが、何分市内は勿論豊浦郡一帶、九州では門司、小倉、若松など皆要塞地帯でありますから、手續せずに寫生して居ると大に失敗致します

す、諸氏が、若し當地方面に遊ばれたら、左の如く和英二様に書てある目標を見られるであります。

許可無くして要塞地帯内及其外方三千五百間以内に於て水陸の形狀を測量、撮影、摸寫、錄取する事を禁ず犯したる者は法律に依り處分せらる可し 陸軍省

それで、寫生するには必ず許可證携帯の上で無てはいけません許可證は、當地要塞司令部へ願書持參、又は返信料封入で申込ので御座います、日光では一週三圓の許可證料を取ると、石川先生の御話にありましたが、當地司令部では無料で下附されます、參考の爲め左に願書の書方を示して筆を置ます。

寫生願

一、目的、何々研究の爲

一、區域、何處

一、期限、明治何年何月より何月まで

右御許可相成度要塞地帯法施行親則に依り此段奉願候也

年月日

住所

氏

名 ㊦

下關要塞司令部

何 誰 殿

### 下諏訪の一日

譯倉

堀谷ワットマン

朝早く、スケッチ箱を肩に懸け、三脚を携へて宿を出て町外れを二三丁を進めば、晝尙暗き森林あり、樹木は日光を遮り、單

に小鳥の啼き聲を聞く、下諏訪神社なり、境内より湖水を臨めば殆んど青疊を敷きたる如く、又た上方を望めば山嶺聳えて、恰も別天地の感あり、此處にて二三の鉛筆スケッチを爲し、更に湖畔に向ふて行くこと二三丁、この地の名物風車水車の設けたる所を見る、畫題を探らんと四方に眼を注ぎしも、平々凡々何の得る所もなし、暇道を辿りつゝ湖畔に出づ、四圍の連山朝風ぎの水、自然に憬れし我精神は、今俄かに海と等しき渺茫たる大觀に接し、悦ばしき限りなし、沼地有り、蘆は茫々として、水面は微風に揺れたり、此處をと三脚に腰をすえ、連山を遠景に、水面及び蘆を近景とし九つ切に描き初む、時に一時、漸くに一枚を仕上げ、有合御着と書せる一茶店に入る、室は古代と思しく天井無く柱皆クソムソムソレーキ色を爲す、晝餉を済まし後暫時の休息寫生帖に簡單なる水繪を抽く、歸路夕陽斜めに、清流は、金色に輝きて眩き許りなり、行くこと四五丁、日は次第に西に没し、月は頭上に淡白く現はる、肥臭き茅舎蕭疎たる間を通り過ぎ、神祠の垣の側に出で、湯の花鬻ぐ商家を餘所に見つゝ、白燈煌々頃再び三層樓の客となりぬ。

## ノートの中より

紅

靜

- 一、濃淡色の調子は飽くまで自然でなければならぬ。
- 一、最初は成るべく部分を見ぬ様にして、其の全體を見なければならぬ。
- 一、或る場合の外は部分々々より仕上ることなく、全體を同時

に仕上る様にしなければならぬ。

- 一、濃淡色彩筆趣の裡に、よく全體の感じが顯はれ、又個性の感じも見えなければならぬ。
- 一、自然美は見えぬ處に澤山その分子を含むて居るから活眼して研究しなければならぬ。
- 一、一點一劃の正確、又色彩の完全は俱によく自然を思はしむ。
- 一、簡單な色が中々解らぬ、青くも赤くも黄なくも見える。
- 一、繪具の撰擇着色の順序方法を誤ると不結果に終るから、筆をとる前に、先づ自然の調子を呑み込み、其の畫くべき順序や方法を案じなければならぬ。
- 一、執筆中は極めて平然として、頭を平等に配らなければならぬ、余り自然に惚れ過ぎて、其の結果自然の捕虜になると稍もすると無意識に筆が走ることもある様だ。
- 一、陰陽の裡には恐ろしき自然の神秘がある様だ。
- 一、さて三脚を据えて見ると、より新らしき感興を見ることがあると云ふのは、自然美の深遠崇高なるところで、素通り位の尋常の見方では見せてくれない、三脚据えてもまだ其の蘊奥は中々見せてくれない、イヤ自然は見せて居るけれど、我々の信仰が足らぬから見得ないのである、見得る丈でもあたから其の恩を無にするではないか。
- 一、寫生中は終始最初の印象を記憶して、寫生中に種々の原因より起る他の印象は放棄しなければならぬ、然し寫生中に、新らしき他のデリケートな、最初より優つた印象を得ると中